まなびと+ Plus vol.8

「観察」と「想像」作品は生徒にとっての リアリティ？

日文の実践事例、教科情報
詳しくはWebへ！ 日文 検索

座談会出席者

【司会】
相馬 亮 先生
尚絅学院大学

原田 裕也 先生
郡山市立富田中学校

廣川 豪 先生
会津美里町立高田中学校

木村 麗子 先生
郡山市立郡山第二中学校

馬場 朝子 先生
郡山市立郡山第五中学校

作品づくりにかかすことのできないことがあります。それは「観察」と「想像」。人は見ることを通じて情報をインプットし，心の中に思い描いたことを絵や立体にあらわすのではないでしょうか。今回は，福島県の先生方にこうした大きなテーマについて，真っ向から話し合っていただきました。

見ているようで見えていないこと

相馬：この座談会のテーマは「観察」と「想像」です。非常に難しいテーマですので一つの答えを見つけ出すことは難しいですが，今後の美術教育に何らかの示唆を与えることはできると思います。**先生方の日々の実践からお考えを教えていただけますか？**

廣川：授業では「想像」題材よりも「観察」題材が多いと思います。絵が苦手，図工が嫌と思って入学してくる生徒が意外と多いです。「なぜ嫌い？」と聞くと，「絵が描けないから」と言います。「絵は手の器用さではなくいかに見るかだ！とにかく見たまま描け」と伝えると案外と描けるものなのです。まず人物スケッチを１年生の最初の授業で行います。モデルは中学生。最初に手のスケッチ，その後に人物画を行います。大事なのはモデルの顔を隠してスケッチをすることです。顔にだけ意識がいって時間がかかり過ぎたり，漫画っぽくなることを避けたり，体全体の形や服のしわなどをよく見て描くようにするためです。「観察」とは自然や人物に向き合うこと。絵画に限定すればいかに見るかではないでしょうか。「想像」とは無から何かを生み出すことではなく，記憶と記憶の組み合わせだと思います。

原田：私は最初に何も見ないで絵を描いてもらうことからスタートします。今までもそうですし，これからもものをじっくり見て描くことや，資料を見て描くことが当たり前になっていくからです。想像だけの絵は本当に面白いです。四本足のニワトリや，実物とは違った昆虫・サメなどが当たり前のように作品として出てきます。しかし想像で描いた絵でもリアリティーが必要だと思います。その後に「足のデッサン」をやります。毎日見ているものだし，歩いてもいるし，使っているものなの

に，なぜか存在感が薄い。自分の体や身の回りのものをよく見てみると，意外な発見があって生徒自身が楽しんでいます。人は見ているようで実は見ていないんですね。

木村：想像して作品にするときには知識が武器になると思います。初めの授業で，「絶対みんながよく知っているものを描くよ！」と言って校章を描いてもらいます。でも１年生はもちろん３年生でも描けない。普段見ているもの，知っているつもりでもいかに見ていなかったか，見ようとしていなかったかを知らせ，知識があやふやであることを伝えます。だからしっかり観察することが重要だと私は思います。また，用具やものごとの仕組みを考えようとしない生徒が多いことが気になります。生活経験が少ないからなのか，想像力が不足していると思います。

馬場：私は，いかにやりたくない子にやらせるか，描きたくない子に描こうという気を起こさせるかに神経を注いできました。見ているようで見ていないことを分からせる意味で，利き手ではないほうの手を机の下に隠させます。それで記憶だけで描いてもらいます。すると1，2分で手が止まってしまいます。じらしにじらしてから，「見ていいよ！」，生徒は真剣に手を見てくれます。全ての生徒が記憶で描くよりも詳しく，上手に描きます。劣等感を背負ってきた子に，自分は実は絵が上手いと思ってもらえるのです。このようにして“見ること”“自信を持つこと”を学ばせています。想像題材は表現よりも鑑賞から始めます。想像画なんて子どもっぽいという先入観を取り払うことが重要ですから。

相馬：スケッチやクロッキーの紹介が多かったと思いますが，**題材のねらいは何ですか？**

廣川：生徒の苦手意識を排除したい。彼らは想像で描けないと美術が苦手と思ってしまう。手のクロッキーは美術が苦手でも描けるので。絵は才能や器用さではなく見ることが重要であることを教えるためです。

原田：見ているつもりでも見ていないことを分かってもらいたいです。「自分の体でしょ。よく見たら」と。漫画のシルエットを悪い例にして，バランスがおかしい，だから“よく見る”ことを伝えます。スケッチをする前に，自分の手を使って鉛筆を削ることもやっています。用具の使い方を学ぶことも重要だと思いますので。

木村：よく見て描いて気づくこと。全体と部分のバランスを。そしてためらわずにやること。長時間粘り強くやることが苦手な生徒でも，短時間で描くと力を発揮することが多々あります。あとは理科的なスケッチも大切だと思います。サイエンティフィック・イラストレーションという分野があります。図鑑の絵を描く人ですね。その人が写真では見つけられなかった品種の違いを，１本１本線を描く地道な作業を通して新種が発見できた。そんなことが実際にあります。人間の観察眼のすごさ，表現力ってすごいと思いませんか。だから，見て発見するということを忘れないでほしいと思います。

馬場：鉛筆を知る，黒を知ることです。スケッチをする前にいろいろな線を引かせます。シャープペンでは持つ角度を変えても常に同じ太さの線。でも鉛筆だと太い線，産毛のような細い線，重ねた画用紙3枚に跡が写るような筆圧強く太い線が描けることを，線遊びをさせながら体験してもらいます。「鉛筆って面白ーい！」と。あとグレースケールもやります。色の世界の広さを学ばせる意味でも，鉛筆１本で幅の広いグレーを表現できることが分かるのは重要だと思います。

「見る」ことと「観る」こと

相馬：先生方の授業実践は，先生方の思想が反映されてい

ると思います。**では，見る（観る）ということについてどうとらえていますか？**

木村：中学生は，可能な限りリアルに表現したいという気持ちが高まってくる時期なので，部分と全体をいろいろなチャンネルに換えるための練習が必要だと思います。じっと見る（観る）ことは自分の内面との対話だと思います。眼に映っているものをじっくり観察してみると，新たに何かが見えてくるのかなと。本人しか分からない感情が，見る（観る）ことによって湧き上がってくるのかなと。やわらかそうとか硬そうとか。

廣川：科学的には見る（観る）ことは情報でしかないと思うので，視覚的にだまされ易いという側面があるのかもしれません。石は重いということを経験から学んでいますが，発泡スチロールでリアルにつくった石は軽い。視覚は非常にあいまいなものではないでしょうか。美術で言う「よく見なさい」とは視覚的にただ映すではなく，五感を使って積極的に見る（観る）ことだと思います。

原田：触ることも見る（観る）ことに含まれると思います。生徒にデッサンをさせるとき，対象を少なくとも一度は触らせます。

相馬：網膜に像として映っていることは同じでも，見ているものは人によって違います。よく使っている「見る」と「観る」との違いについて，私なりにまとめてみました。

「見る」（一見，発見，見当）…見る対象に明確な目的や意図を持っていない場合
「観る」（拝観，観劇，観客）…明確な目的や意図をもって対象を見ている場合

ちなみに「観察」とは，物事の状態や変化を客観的に注意深く見ること。我々は「観察画」，「想像画」と簡単に使っているけれど，見る（観る）こと一つとっても，美術教育にどのようにつなげていけばいいのか改めて考えさせられました。

「観察」と「想像」はつながっている

相馬：**では，「観察」と「想像」の関係性はどう感じていますか？**

馬場：見たことがなければ想像はできないと思います。視覚的に想像できない。観察して見たことを制作のプロセスの部品として使っている。記憶から引っ張り出して想像の世界につなげているのではないでしょうか？

廣川：想像は見たことのないものを記憶や経験からつくり出すこと。だから「観察」と「想像」は対になる言葉ではないと思います。想像は観察や経験から学んだ知識の再構成。

馬場：観察が食材，想像が料理という関係かな。食材がなければ，料理はできない。理科のスケッチは観察的で，美術のスケッチは想像的。美術の場合は好きなところを見るじゃないですか。「わたしここが好きー！」って。

原田：美術の観察画は客観的ですかね？（違うと思う）。想像画に主観が入るのは納得ですけど。だから観察と想像は離れてはいないじゃないですか。想像しているつもりが，想像ではない。想像画でもリアリティーがないといけない。美術での「客観」と「主観」って何なのでしょう？

相馬：観察すると想像が膨らみ，想像しようとすると観察しなければいけない。観察と想像が行ったり来たり。

木村：パズル的にものを当てはめてしまう子と，ここにこうしたいとものをつけ加えていく子では違いがあると思います。花の観察の場合でも，見えたものを見えたようにやってみようと思う子もいるし，「なんか花びらの形が違う，説得力が足りない」と貪欲に

追求していく子では深まり方が違うと思います（想像的に観察する眼）。

馬場：「観察画は本物にリスペクト！」，感動した部分を強調したり，その他を省略したりはするけれど，創作はしないと思う。観察によって発見したそのモチーフのお気に入りの部分を絵に描くことで，少しでも自分のものにしたいと願うような，謙虚さのある作業だと思います。

原田：ということは「観察画」は本物を超えないということですか？

木村：観察したものが本物を超えてはいけませんか？だったら写真に撮ったらいいじゃないですか？そのときの感じ方が作品になるのだから，同じものは決して描けない。そこが観察してものをつくる一番面白いところだと思います。

廣川：本物を超えてもいいと思います。何を持って超えるかということですが，味があっていいと思う人もいれば，リアルじゃないからだめと思う人もいる。「想像」とは無いものを生み出すことではなく，ここにこれを描きたいと思えば想像になっていくのではないか。だから「観察」と「想像」はつながっていると思います。

馬場：スタートは観察から始めるけれど，観察し続ける子と，想像に進んでいる子とに分かれる。でも観察が入り口には間違いない。例えば，想像画（ザリガニやトンボの）を描くときは，ザリガニやトンボをしっかり見ますよね。観察して感動したことを絵にしていますよね。想像する前にまずよく見てほしいと思います。

木村：相手を知りたいと思うことが大事。知りたい気持ちを高めるのが，観察なのかなと思います。

相馬：やはり経験が基となって，想像があるのかなと思っています。五感を使った経験があって想像が膨らんでいくのでしょうね。だから中学校の最初に観察画をやることの意味があるのだと思います。人間が成長していく過程で，観察することと想像すること，両方が重要です。**最後に聞きます。「観察」と「想像」とは？**

木村：「観察」は人を知りたいという受信，「想像」は自分を知ってほしいという発信。

原田：「想像」は自分を見つめること，「観察」は周りを知ること。

廣川：「想像」は内面，つまり制作の動機が自分にある。「観察」は空間の認識，色，奥行きなど周りの世界を把握すること。自分と対象との距離感をとらえること。

馬場：「観察」は先入観を捨ててありのままに見ること，自分の現在地を確認すること。「想像」は現実に屈しない力。どんな状況でも前を向いて理想を抱ける力。

まなびと+Plus vol.8

日文教育資料［図画工作・美術］

平成27年（2015年）9月30日発行

編集・発行人　佐々木秀樹

発行所　日本文教出版株式会社
〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33288

日本文教出版 株式会社
http://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171

東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618

九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938

東海支社　〒461-0004　名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261

北海道出張所　〒001-0909　札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690